

国際耕種は2014年に創立30周年を迎えました

国際耕種は昨年12月14日で創立30周年を迎えました。1984年に会社を設立し、1989年頃から開発コンサルタント業務を開始して以来、現在では10名の専門家で活動を続けています。30周年行事として、これまでの活動を皆様を紹介するとともに、これまでお世話になった方々への感謝も含めて昨年12月14日に創立記念パーティーを行い、また30周年記念写真集とAAINews記事を取りまとめたAAINews創立30周年記念版を発刊しました。

創立記念パーティーには、会社創立以来の知人／恩人、仕事でお世話になった方々、株主など約50名の来賓の方々に参加して頂きました。



式典ではおいしい料理を嗜みながら皆様からの祝辞を頂き、社員からは海外での農業支援活動、筑波での研修業務など国際耕種の活動の歴史と変遷を社員によるタスキリレー(下写真左から2~5枚目)で紹介しました。最後に、前代表である小島通雅からの挨拶、代表取締役・大沼洋康、新取締役・古賀直樹及び小島伸幾の紹介(下写真右上)を行い散会としましたが、引き続き延々と二次会／三次会で多くの方との楽しい懇親が続きました。

今回の30周年行事を準備しながら気付かされたことが多くありました。写真集作成では30年間の我々の専門分野・活動地域の広がり、そして活動を通して知り合い国際耕種を育ててくれた多くの現場仲間の存在でした。また、AAINews創立30周年記念版編集で特に感じたことは、AAINewsの情報発信力の大きさでした。AAINewsは社員が海外でほとんどばらばらに活動し、日常的な通信もままならない時の社員間の情報交流という意味合いで始めた情報誌です。1995年に創刊してから、これまで87回を発信し、34課題について紙面上で論議し、また日本を含め36カ国の紀行を73回にわたって紹介しています。発行のたびに多くの方々から励まし／お叱りをいただきながら作成していますが、我々が日頃考えていることがほぼ網羅されており、作成した我々としても一つの道標となっています。

これまで多くの方々のご支援で国際耕種をここまで大きく出来ました。国際耕種も世代交代という大きな転換期に来ています。若手の育成・発掘が急務となっています。皆様のご協力を頂きながら、今後も新体制の下で、本来あるべき適正規模、適正技術による国際貢献の一翼を担っていきたいと思っています。また、AAINewsも皆様への情報発信の源、社員間の交流の場として継続していきます。今後ともこれまで通りのお付き合い、ご支援の継続をよろしく願いいたします。30周年記念写真集はAAIホームページにも載せております。1970年代からの写真もありますので、是非ご覧ください。また、AAINews創立30周年記念版をご希望の方はご一報ください。

(社員一同)

